

# 緑が丘

令和7年4月8日発行 三木市立緑が丘小学校



## 「自分でできる」「みんなと決める」学校 2025

～今日も「学校が楽しかった」～

満開の桜の中、新学期が始まりました。  
子どもたちの登校を喜んで迎えてくれるかのようです。

4月7日、始業式準備のために登校してきた6年生の姿、そして8日朝の「おはようございます。」の声、表情から新学年、クラスで友だちや先生と頑張ろうという意気込みが伝わってきました。

張り切っているひとり一人の子どもの思いに応え、今年度も「**今日も学校が楽しかった**」を実感できる学校創りに全教職員、心一つに努めてまいります。本年度、児童数304名でスタートします。

### 「人は人なか」「木は木なか」

さて、九州、鹿児島県の南方、屋久島に「人は人なか 木は木なか」という言葉が言い伝えられています。屋久島には、樹齢三千年を超えるといわれる縄文杉をはじめ、大きな杉がたくさんあります。樹齢二百年を超えないと屋久杉と呼ばれないそうです。

杉の木は杉林の中でしか育たず、周りの木が切り倒されてしまうと森全体の調和が崩れ、やがて枯れてしまうのだそうです。木は木の中でこそ生きて育つ。これが「木は木なか」と言われる理由です。このことから「人は人なか」という言葉も想像できるかと思います。「人は人の中でこそ育つ」という意味です。家族はもちろん、友だちや地域のおじいちゃん、おばあちゃんなど、いろいろな人たちとたくさん触れ合う中で、社会性や規範意識を含め、生きていくうえで大切な力を伸ばします。現在、世の中全体が、恐ろしいスピードで価値の多様化が進み、大人も子どもも、つい自分の価値観の合う人とだけ話したりグループになったりしがちです。しかしながら、自分と価値観の違う人を、考えたくない事を、やりたくない出来事を全て排除することは、邪魔な杉の木を切り倒すことと同じです。価値観の違う人とこそ、対話し、折り合うところを見つけ、新しい方法を創り出す力。それが、より一層求められるのが、子どもたちがこれから生きていく社会です。

学校生活での1年生の小さな手や異年齢の仲間や友だちとの関わり、価値観の違う人とのやりとりが、きっと子どもたちの生きる力につながります。

そこで、本年度は、子どもたちの自然な関わり合いが生まれることを期待し、教室の配置を見直しました。また、より多くの目で子どもたちに関りたいと考え、低学年からの交換授業を継続し、高学年の教科担任制を広げていきます。より多くの関わりの中で、子どもたちの良さを多面的多角的に見つけ、チームで応援していきます。

人との磨き合いを怖がらず、やわらかでたくましい力を伸ばしてほしいと願っています。

今年度も保護者の皆様、関係機関等の皆様とともに「Open Share Team(オープンシェアチーム)」として前に進めていけるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。(校長 佐野 順子)

はるがきた  
うさぎふたご

ももいろの  
すきとおる みみに

きこえてくる  
はるの ひびき

おかのうえから  
らんらん  
たんぽぽの  
ふかふかのうた



くどうなおこ「のはらうた」より